

# 第1部

## 歴史、その流れと瞬間

1

写真でふりかえる京都府立医科大学の150年

2

創立150周年を祝う

# 写真でふりかえる京都府立医科大学の150年

1871 明治4年 4月 明石博高が京都府に病院・医学校の設置を建言

7月 文部省新設

10月 府が療病院建営の告諭

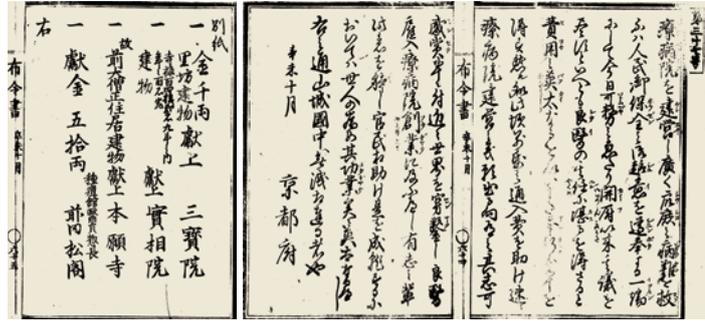
10月 廃藩置県布告



明石博高



横村正直  
(京都府立京都学・歴史館蔵)



療病院建営の告諭

1872 明治5年 9月 初代外国人医師ヨンケルが木屋町の仮療病院で診療と医学教育を開始

2月 粟田山中に解剖所開設

4月 上京区に新英学校、女紅場(女学校)開設

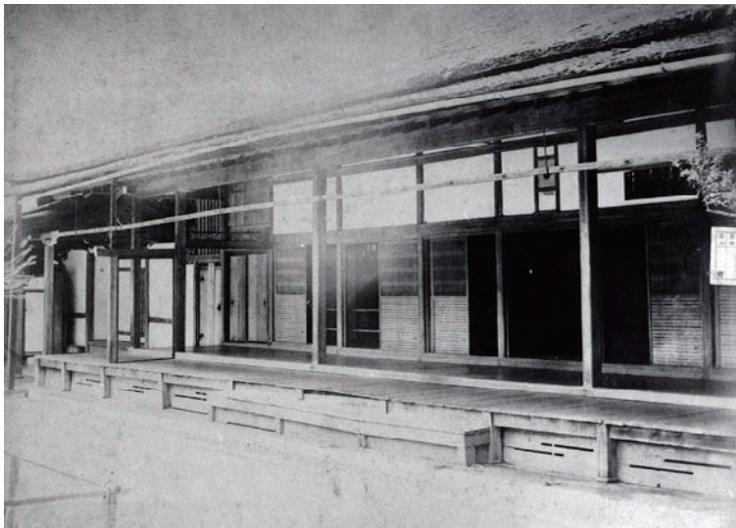
11月 粟田口青蓮院に仮療病院を設置、開業式を挙げる



ヨンケルと医員ら



療病院址碑



仮療病院(青蓮院宸殿) (京都府立京都学・歴史館蔵)



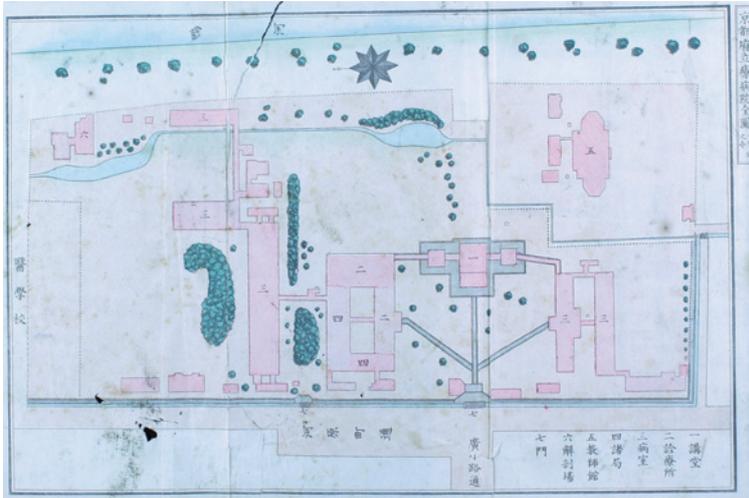
京都新報





**1880** 明治13年 7月 京都療病院が上京区梶井町に移転、開業式を挙行  
12月 療病院碑完成

7月 伝染病予防規則公布



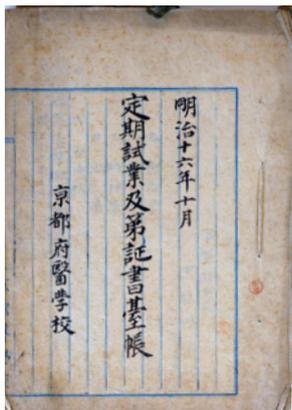
療病院全図



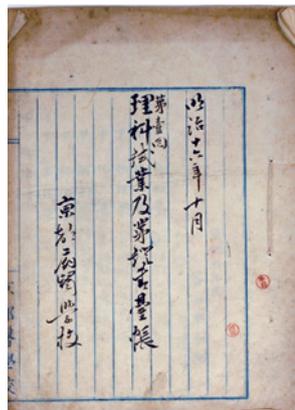
療病院碑

**1882** 明治15年 11月 京都府医学校、甲種医学校(4年制)に認定

5月 医学校通則制定



定期試業及第証書台帳



第一回理科試業及第証書台帳

**1887** 明治20年 1月 猪子止戈之助が京都府医学校長兼京都府立療病院長に就任

7月 日本薬局方施行



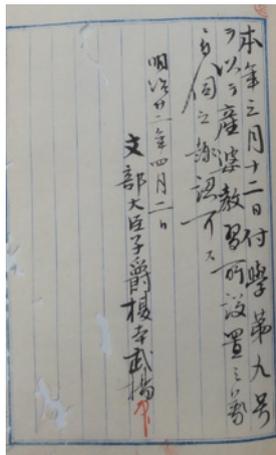
猪子止戈之助



療病院の医員(1886年)

1889 明治22年 4月 京都府医学校に附属産婆教習所を設置

2月 大日本帝国憲法制定



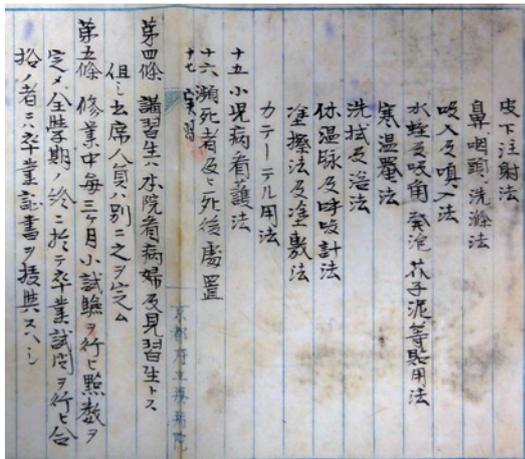
産婆教習所設置認可  
(京都府立京都学・歴史館蔵)



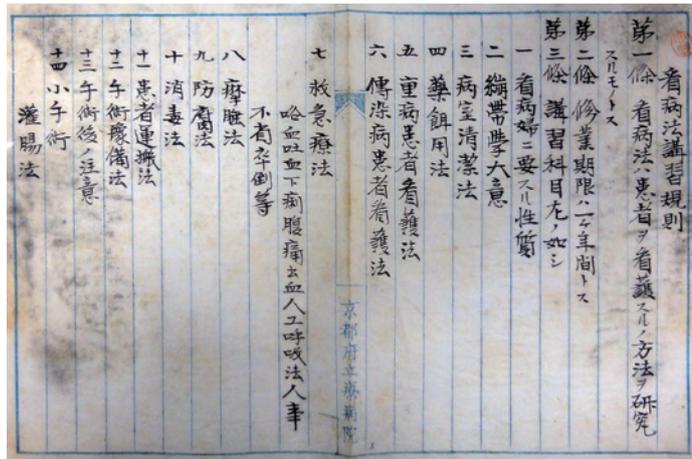
産婆教習所卒業生(1937年)

1896 明治29年 4月 京都府医学校に附属看護婦教習所を設置

11月 日本歯科医学会結成



看病法講習規則(1897年)



1903 明治36年 6月 京都府立医学専門学校・附属療病院に改称

2月 帝国聯合医会設立



京都府立医学専門学校・附属療病院

1908 明治41年 11月 開校30周年記念式典を挙げる

4月 癌研究会設立



創立30周年記念式典



1914 大正3年 11月 校舎・療病院舎の大改築完成、落成式を挙げる

7月 第一次世界大戦が起こる



校舎・院舎大改築落成式

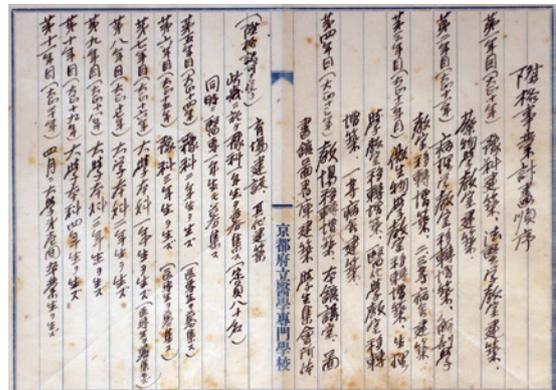


1919 大正8年 4月 大学昇格運動が高まる

4月 大学令施行



昇格運動弁論大会



昇格事業計画順序

1921 大正10年 10月 京都府立医科大学・予科を設置

4月 度量衡法改正公布

11月 創立50周年記念式典・大学昇格祝賀式典を挙

12月 日英米仏四国条約調印



京都府立医科大学全景

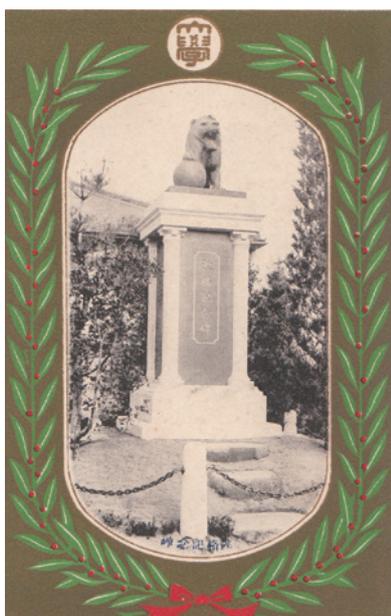


創立50周年・大学昇格記念式典



1925 大正14年 4月 陸格記念碑除幕式を挙

7月 東京放送局(JOAK)、ラジオ放送開始



陸格記念碑



予科正門

**1929** 昭和4年 5月 中央図書館(1階教室、2階図書館、3階階段教室など) 竣工 2月 日本寄生虫学会設立



中央図書館

**1938** 昭和13年 5月 大日山墓地の「学用患者之墓」を「俱会一処」に改刻、 4月 国家総動員法公布  
「研究動物諸霊供養塔」を建立



俱会一処碑



研究動物諸霊供養塔

**1944** 昭和19年 3月 財団法人伏見病院の寄付を受け、附属女子専門部 8月 学徒勤労令及び  
附属医院(通称伏見分院)を開設 女子挺身勤労令公布



伏見病院

**1950** 昭和25年 6月 西構(河原町通広小路下ル、看護婦寄宿舍跡及び隣接地)に生理学・衛生学・薬理学教室など竣工

6月 朝鮮戦争勃発、物価急騰



西構(基礎医学各教室)

**1952** 昭和27年 4月 新制京都府立医科大学が発足

8月 GHQが廃止。  
占領下から脱却

11月 創立80周年記念祝賀式典を挙



新制京都府立医科大学

**1957** 昭和32年 1月 学友会館の土地・建物が京都府から学友会に譲渡

12月 100円硬貨発行



学友会館



1969 昭和44年 2月 学園紛争が激化し学生自治会が無期限ストライキに突入、9月から授業再開

7月 米・アポロ11号が月面に着陸



学園紛争

1972 昭和47年 8月 花園学舎竣工  
11月 創立100周年記念式典を挙

5月 沖縄が日本に復帰、  
沖縄県誕生



花園学舎



京都府立医科大学全景

1977 昭和52年 11月 与謝の海病院竣工

6月 和歌山県で集団コレラ



与謝の海病院



1982 昭和57年 11月 附属小児疾患研究施設(京都府こども病院)竣工

6月 東北新幹線開業



レリーフタイル

1992 平成4年 2月 附属図書館・合同講義棟竣工

3月 新幹線に「のぞみ」登場



附属図書館・合同講義棟

1993 平成5年 3月 医療技術短期大学部校舎竣工

6月 皇太子徳仁親王と  
小和田雅子さんの結婚の儀



医療技術短期大学部校舎

1999 平成11年 3月 基礎医学学舎竣工

2月 脳死臓器移植実施



基礎医学学舎

2011 平成23年 9月 外来診療棟等工事完成

3月 東日本大震災発生



外来診療棟

2012 平成24年 7月 大学門および周辺整備事業完成

12月 山中伸弥教授がiPS細胞の作製でノーベル医学生理学賞受賞



大学門

**2014** 平成26年 9月 京都三大学教養教育共同化施設(稲盛記念会館) 竣工

6月 日本人男性の平均寿命  
80.21歳、初の80歳超え



稲盛記念会館

**2017** 平成29年 11月 永守記念最先端がん治療研究センター竣工

1月 トランプ大統領就任



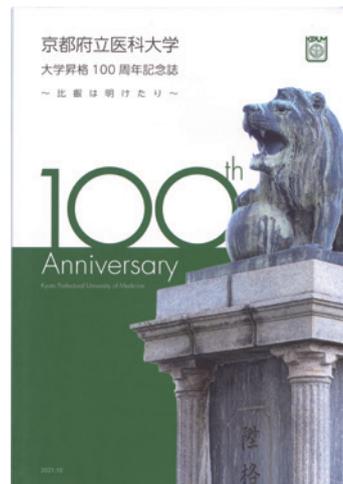
永守記念最先端がん治療研究センター

**2021** 令和3年 10月 大学昇格100周年記念式典を挙げる

7月 東京オリンピック・  
パラリンピック開催



八木准教授講演「大学昇格への道」



大学昇格100周年記念誌

**2022** 令和4年 11月 創立150周年記念式典を挙げる

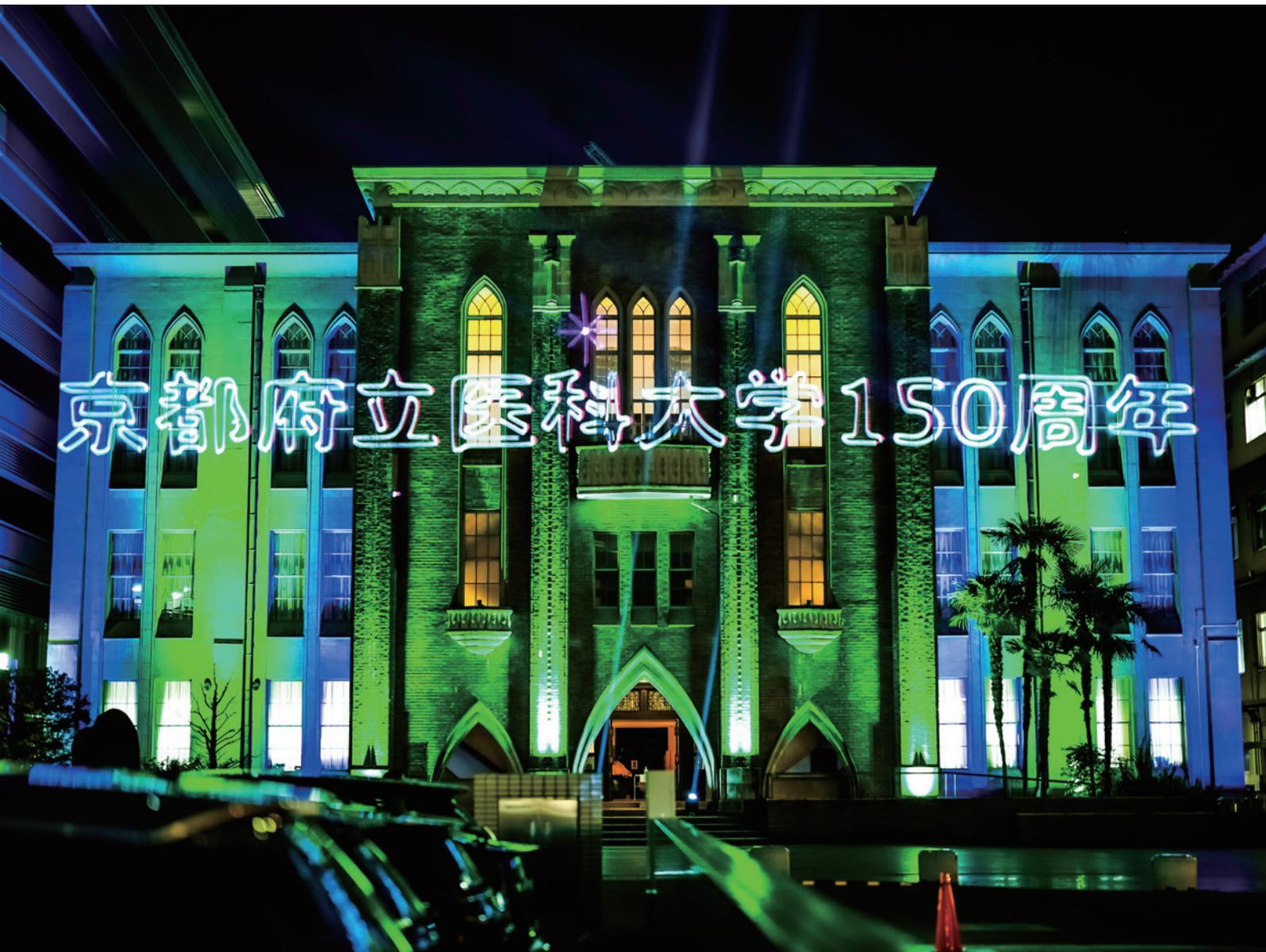
2月 ロシアがウクライナに  
軍事侵略

(注)所蔵者の記載のないものは、本学の所蔵である。

# 創立150周年を祝う

スローガン：継承し創造する未来

創立150周年記念事業はオープンキャンパスやトリアス祭とも連携し、「ゴールドリボン小児がんチャリティーウォーキング」「附属病院オープンホスピタル」をはじめ多くの府民参加の多彩な催しに加え、2022(令和4)年11月4日には国際シンポジウムが京都学・歴史館で開催されるとともに、翌5日には記念式典・講演・祝賀会が国立京都国際会館で行われた。



# 1. 国際シンポジウム

日時：2022年11月4日(金)13時～17時30分

場所：京都学・歴彩館

2022(令和4)年11月4日に京都府立医科大学創立150周年記念事業の一つとして国際シンポジウムを開催した。本学が創立時ヨンケル先生を招聘することで臨床医学・医学教育が始まったことを振り返り、一方、現代のグローバル化の中で本学が“世界トップレベルの医学を地域へ”のスローガンを達成するためには、海外との交流により大学を国際化し、また海外の大学と協調していくことが必要であると考えたからである。

シンポジウムでは本学が海外から取り入れた経緯を振り返るとともに、これから海外から学ぶべきこと、取り組むべきこと、海外へ発信すべきことを議論するため、元英国医学史学会 David Wilkinson 博士と海外の主な協定校の学部長、副学部長の先生方をお招きした。

まず元英国医学史学会会長で世界麻酔科学会の前会長の David Wilkinson 博士には、今回臨床麻酔科学会からの招聘と合わせて本シンポジウムで講演頂いた。協定校からは、30年以上交流を続けているオクラホマ大学医学部副学部長 Christopher Candler 教授に講演いただいた。彼は2016(平成28)年に本学との交流30周年記念でも来学して頂いた。Double Degree Program で交流が深いオランダ Maastricht 大学からは医学部長 Annemie Schols 教授と Harry W. M. Steinbusch 教授、イギリスからはエジンバラ大学医学部長 David Kluth 教授、リーズ大学医学部副学部長 Laura Stroud 教授、2020年に協定締結したアジアの大学からは国立シンガポール大学医学部長 Chong Yap Seng 教授、チュラロンコン大学医学部長 Chanchai Sittipunt 教授に講演して頂いた。

シンポジウムの前後には、行陵会のサポートにより大原観光を楽しんで頂き、島津製作所のサポートにより島津創業記念館ならびに京ラボ、島津サイエンス・プラザ、メディカルセンターを見学、本

学 KiSA の学生と DDP で本学留学中の学生との懇談会へ参加、そして150周年式典ならびに懇親会への出席と大変忙しいスケジュールであったが、本学との交流と共に提携校の先生方同士も交流して頂ける貴重な時間となった。

11月4日当日は京都学・歴彩館およびオンラインで合わせて101名の方々が参加。第1部で Wilkinson 博士からヨンケル先生の麻酔器発明に関わる業績について講演頂いた。第2部・第3部ではこれからの100年を見据えた医療の展開を、欧米の大学からの視点で Christopher Candler 教授、Harry W. M. Steinbusch 教授、David Kluth 教授、アジアの大学からの視点で Chong Yap Seng 教授、Chanchai Sittipunt 教授に講演して頂いた。様々な方向性が示されたが、人口の高齢化とそれに伴う疾患への対応、持続可能な医療の発展、デジタルトランスフォーメーションなどに関わるそれぞれの大学の取り組みを示して頂いた。第4部では日本からの発信として、慶應義塾大学医学部皮膚科学・International Human Frontier Science Program Organization (HFSP)サイエンティフィックオフィサーの足立剛也特任講師から HFSP の日本からの発信の取り組み、本学からは、樽野陽幸教授から自身の研究における国際共同研究について講演頂いた。そして第5部ではこれからの国際交流について服部匡志特任教授、Annemie Schols 教授、Laura Stroud 教授から、ベトナムをはじめとするアジアへの医療支援、コロナ後の国際交流の在り方、異文化に触れる学生の海外生活の意義をお話し頂き、その後は会場の留学生、本学学生も交えて活発な議論を展開した。

これからの本学の国際交流の在り方にも重要な示唆を頂ける機会となったことを、改めて講演を頂いた先生方、参加頂いた教職員・学生、そして他学の先生方にも御礼申し上げる。



David Kluth 教授



Harry W. M. Steinbusch 教授



Christopher Candler 教授



Chanchai Sittipunt 教授



Chong Yap Seng 教授



梅野陽幸教授



足立剛也特任講師



Annemie Schols 教授、Laura Stroud 教授、服部匡志特任教授



学生も交えた交流会の様子



島津製作所本社にて海外からの先生方と

## 2. 記念式典・記念講演

日時：2022年11月5日(土) 記念式典:14時～15時25分 記念講演:15時35分～16時20分  
場所：国立京都国際会館メインホール

1872(明治5)年に粟田口・青蓮院に仮療病院を設置し、病に苦しむ患者の治療を行うとともに医学生教育をはじめた本学は、2022(令和4)年に創立150周年を迎え、これを記念する式典が同年11月5日(土)に宝ヶ池・国立京都国際会館メインホールにて開催された。

式典には、彬子女王殿下にご臨席を賜るとともに、ご来賓として京都府知事、日本医学協会会長をはじめ多くの学友など約600名を迎え、盛大に執り行われた。

まず、本学オーケストラ部が中心の「京都三大学合同交響楽団」による「ニュルンベルクのマイスタージンガーより第1幕への前奏曲」の演奏、「混声合唱団たちばな」による学歌斉唱の後、竹中洋学長による開式の辞並びに井端泰彦学友会長の挨拶により、「京都府立医科大学創立150周年記念式典」が開式となった。

竹中洋学長の式辞では、ご列席の皆さまへの感謝の意と併せ、1872年に設立された療病院で西洋医学の教育を始めたことに端緒を返し、昨年は大学昇格100周年を迎え、医学教育と医師養成とともに歩んだ150年であること、継承の中で未来は創造されるが、創造する未来の種子は継承の中にあるだけでなく、151年を踏み出すための今日であって欲しいと未来に向けた決意を述べた。続いて井端泰彦学友会長が挨拶

を述べたあと、彬子女王殿下からお祝いのおことばを頂戴するとともに、西脇隆俊京都府知事、門田守人日本医学協会会長、千玄室裏千家15代・前家元、海外提携校を代表してChristopher Candler オクラホマ大学医学部副学部長からそれぞれ祝辞が述べられた。

次に、文部科学大臣のメッセージをはじめ、総務大臣ほか多くの祝電が披露された。

その後、山田大智医学科学生代表と井上彩奈看護学科学生代表から「誓いの言葉」があり、「伝統を受け継ぎ、今後の更なる発展のために尽力することをここに誓います」と述べた。

最後に夜久均創立150周年記念事業実行委員会委員長による閉会の挨拶により記念式典は幕を閉じた。

新型コロナウイルスの影響もようやく落ち着く中で、多くの学友が一堂に会し、150年の歴史を振り返るとともに新たな門出を祝い、次代への大学の発展を祈念した。

その後、記念講演では、山極壽一総合地球環境学研究所所長・京都大学前総長に「未曾有の地球危機に今考えるべきこと」と題したお話を頂いた。地球環境やコロナ禍を踏まえ、人類福祉や教育の大切さなどに言及され、健康の概念を地球規模に広げることへの期待が示された。

**記念式典 次第**

開式  
奏楽 京都三大学合同交響楽団  
学歌斉唱 京都三大学合同交響楽団・混声合唱団たちばな  
式辞 竹中 洋 京都府立医科大学学長  
挨拶 井端 泰彦 京都府立医科大学学友会長  
おことば 彬子女王殿下  
来賓祝辞 西脇 隆俊 京都府知事  
門田 守人 日本医学協会会長  
千 玄室 裏千家15代・前家元  
Christopher Candler オクラホマ大学 医学部副学部長

メッセージ披露  
誓いの言葉 山田 大智(医学科6年生)、井上 彩奈(看護学科4年生)

開式の挨拶 夜久 均 京都府立医科大学創立150周年記念事業実行委員会委員長

開式

**記念講演**

山極 壽一 総合地球環境学研究所所長・京都大学前総長  
「未曾有の地球危機に今考えるべきこと」



講演者山極壽一氏は、京都府立医科大学、国立京都国際会館で講演された。講演内容は、本学創立150周年を記念して、本学が150年を歩んできた歴史、医学教育の重要性、そして、地球環境やコロナ禍を踏まえ、人類福祉や教育の大切さなどに言及され、健康の概念を地球規模に広げることへの期待が示された。





式辞／竹中洋学長



挨拶／井端泰彦学友会長



おことば／彬子女王殿下



祝辞／西脇隆俊京都府知事



祝辞／門田守人日本医学会長



祝辞／千玄室裏千家家元



祝辞／Christopher Candler  
オクラホマ大学医学部副学部長



誓いの言葉／山田大智医学科学学生代表と井上彩奈看護学科学学生代表



閉式の挨拶／夜久均実行委員長



記念講演／山極壽一総合地球環境学研究所所長

### 3. 記念祝賀会

日時：2022年11月5日(土)17時～19時

場所：国立京都国際会館イベントホール

午後5時から、会場をイベントホールに移し多くの学友が集う祝賀会が約400名の参加で盛大に開催された。

冒頭、祇園甲部芸妓連の祝舞に続き、本学医学科卒業生でヴァイオリニストの石上真由子さんの演奏が行われた。

続いて開会にあたり、河田光博学友会副会長の挨拶の後、山岸久一元学長からの祝辞と乾杯の挨拶により祝宴が始められた。

その後、ベトナムを中心に失明予防に尽力し、「アジアのノーベル賞」と呼ばれるマグサイサイ賞を受賞した服部匡志特任教授に、大学法人金田章裕理事長から功績表彰が授与された。

次に、ご来賓の門川大作京都市長、井村裕夫京都大学元総長、松尾太加志公立大学協会会長、松藤千弥東京慈恵会医科大学学長、松井道宣京都府医師会会長、宮本享京都大学医学部附属病院院長、塚本康浩京都府立大学学長より祝辞が述べられた後、歴代学長の佐野豊氏、吉川敏一氏からのご挨拶を頂いた。学生からは、清田倫太郎医学科学生代表からコロナ禍での学生生活の現況について報告があった。

最後に、混声合唱団たちばなによる校歌斉唱と学歌の原譜が作曲家服部正氏のご家族からご寄付を頂いた旨報告があった後、学歌を斉唱し、学友会東道伸二郎京都支部副支部長の閉会挨拶によって、プログラムは盛況のうちに幕を閉じた。

今後とも、京都府立医科大学は、「世界トップレベルの医学を地域へ」の理念のもと、次の200周年を目指して、京都府民の皆さまとともに、一歩ずつ歩むことを誓う。

祝賀会 次第	
開会	
祝舞	祇園甲部芸妓連
音楽	石上 真由子 ヴァイオリニスト(京都府立医科大学卒業生)
開会の挨拶	河田 光博 京都府立医科大学学友会副会長
乾杯	山岸 久一 京都府立医科大学元学長
法人表彰	服部 匡志 マグサイサイ賞受賞者(京都府立医科大学特任教授)
祝辞	門川 大作 京都市長 井村 裕夫 京都大学元総長 松尾 太加志 一般社団法人公立大学協会会長・北九州市立大学学長 松藤 千弥 東京慈恵会医科大学学長 松井 道宣 一般社団法人京都府医師会会長 宮本 享 京都大学医学部附属病院院長 塚本 康浩 京都府立大学学長
歴代学長の挨拶	佐野 豊 京都府立医科大学元学長 藤田 督也 京都府立医科大学元学長 吉川 敏一 京都府立医科大学元学長
学生生活の報告	清田 倫太郎 京都府立医科大学学生代表
学歌・校歌斉唱	混声合唱団たちばな
閉会の挨拶	東道 伸二郎 京都府立医科大学学友会京都支部副支部長
閉会	



法人功績表彰／服部匡志特任教授・金田章裕理事長



祇園甲部芸妓連による祝舞



ヴァイオリニスト石上真由子さんの演奏



祝賀会会場の様子



開会の挨拶／河田光博学友会副会長



乾杯の音頭／山岸久一元学長



祝辞／門川大作京都市長



祝辞／井村裕夫京都大学元総長



祝辞／松尾太加志公立大学協会会長



祝辞／松藤千弥東京慈恵会医科大学学長



祝辞／松井道宣京都府医師会会長



祝辞／宮本享京都大学医学部附属病院長



祝辞／塚本康浩京都府立大学学長



挨拶／佐野豊元学長



挨拶／吉川敏一前学長



閉会の挨拶／東道伸二郎学友会京都支部副支部長



学生生活の報告／清田倫太郎  
医学科学生代表



ピアノ／小西杏奈混声合唱団  
たちはな代表



学歌斉唱